

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工 鉱業振興費

事 業 名 起 業 家 精 神 育 成 プ ロ ジ ェ ク ト 事 業 費 (R 8 分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業イノベーション推進課 電話番号：058-272-1111(内3744)

スタートアップ推進係 E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 7,413 千円 (現計予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	7,413	3,688	0	0	0	0	0	0	3,725
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

人口減少・少子高齢化が本格化する中であっても、地域の活力を失うことなく持続可能な「清流の国ぎふ」づくりを進めるには、県の雇用・所得・財政を支える新たな産業の芽であるスタートアップを生み出し、育成する必要がある。

そこで、「ぎふスタートアップ支援コンソーシアム」の会員と連携し、県内中高生等に広く、アントレプレナーシップ (起業家精神) 教育を行うことで、将来起業する際に必要な能力を育てるだけでなく、職業選択時の候補に「起業」が当たり前に含まれる中高生を県内全体で増やしていき、スタートアップが生まれるやすい環境を整備する必要がある。

(2) 事業内容

スタートアップコンソーシアム事業の一環として、会員と連携し、より一体的に中高生を対象とした起業家精神を育むためのプログラムを実施する。

具体的には、会員が行う高校生へのアントレプレナーシップ事業などの取組みと連携しつつ、県は側面支援や取組みの出口としてのビジネスプランコンテストを開催するほか、将来を見据えた中学生を中心としたアントレプレナーシップ教育プログラムを実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

新たな地域経済の担い手を創出することは県経済の振興につながるものであり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	委員謝金
旅費	48	委員費用弁償、職員旅費
需用費	38	消耗品費(36千円)、会議費(2千円)
役務費	12	通信運搬費
委託料	7,195	アントレプログラム、ビジコン開催委託料
使用料及び賃借料	88	会場使用料
合計	7,413	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略 施策編1 - (1) - ②の施策として、アントレプレナーシップ研修の実施を記載。

(2) 国・他県の状況

国においてもスタートアップの育成を重点のひとつとして取り上げ、人材の育成を支援していく方針を掲げており、アントレプレナーシップ教育に取り組んでいる。

愛知県では、小中高生を対象とした起業家精神育成事業「AICHI STARTUP SCHOOL」を実施している。

(3) 後年度の財政負担

県経済の振興につながるものであり、県負担で実施していく。

(4) 事業主体及びその妥当性

将来の県経済を支える人材育成に資する事業であり、県が実施することが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

起業家精神を有する人材育成に向け、アントレプレナーシップ（起業家精神）教育を受講した中高生を、ぎふスタートアップ支援コンソーシアム会員と連携して令和9年までに累計1,290人とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R5年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①アントレプレナーシップ教育受講者数(累計)	162 ※「岐阜アントレプレナーシッププログラム」の受講者数	162 ※「岐阜アントレプレナーシッププログラム」の受講者数	390	820	1,290	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	事業の前身である「ぎふアントレプレナー教育事業」にて、県内中高生を対象とした、アントレプレナーシップ教育プログラムを実施
令和6年度	事業の前身である「ぎふアントレプレナー教育事業」にて、県内中高生を対象とした、アントレプレナーシップ教育プログラムを実施
	指標① 目標：___ 実績：162名 達成率：12.6% ※実績は累計
令和7年度	令和9年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 2	今後も人口減少・少子高齢化が見込まれる中で、持続可能な「清流の国ぎふ」づくりを進めるには、県の雇用・所得・財政を支える新たな産業の芽であるスタートアップを生み出し、育成する必要がある。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	ぎふスタートアップコンソーシアム会員と連携してアントレプレナーシッププログラムの実施、またその出口となるビジネスプランコンテストを実施しており、期待通りの成果を見込む。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	委託先企業 (プロポーザルにて選定) と役割分担し、効率的な事業実施に取り組んでいる。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 国の動向や他県 (愛知県) などの取組みについても参考にしながら、アントレプレナーシップ教育の効率的な実施方法を検討する。	
--	--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の起業に対する気運醸成を図り、新産業・新サービスなど、新たな地域経済の担い手を創出することは県経済の振興につながるものであり、継続して事業に取り組んでいく。	
--	--